

平成 22 年 6 月 8 日現在

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005 ～ 2009

課題番号：17063011

研究課題名（和文） 古代西アジア建築における組積技術の形態と系譜に関する研究

研究課題名（英文） A Study on the Styles and the Genealogy of Masonry Techniques in Ancient West Asian Architecture

研究代表者

岡田 保良 (OKADA YASUYOSHI)

国土館大学・イラク古代文化研究所・教授

研究者番号：90115808

研究成果の概要（和文）：

1. シリア・パレスティナ地域の建築組積の特徴を明らかにし、かつ類型化するための基礎的データを蓄積した。
2. イラン系建築組積の特徴とその広がりを把握した。
3. 西アジアのドーム組積術の多様性を認識した。

研究成果の概要（英文）：

1. To store up basic data to identify the feature and to establish the typology were stored up concerning the ancient architectural masonry in the Syro-Palestine region,
2. To ascertain the masonry technique of the possibly Iranian origin and its expansion.
3. To understand the diversity of masonry construction of the dome in West Asia.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	3,800,000	0	3,800,000
2006 年度	5,900,000	0	5,900,000
2007 年度	5,700,000	0	5,700,000
2008 年度	4,700,000	0	4,700,000
2009 年度	3,900,000	0	3,900,000
総計	24,000,000	0	24,000,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目： 建築学・建築史

キーワード：建築組積、ヨルダン、シリア、ドーム、ヴォールト、切石、ビシュリ山系

1. 研究開始当初の背景

本研究は「セム系部族社会の形成」という領域研究テーマのもとで、建築学的アプローチを試みるもので、近隣分野、すなわち、シュメール文明に先行する西アジア最初期の建築文化に対する新石器文化の研究、あるいは多様な建築類型を醸成した都市文明やその

形成を究める研究や聖書考古学的研究との連携により、西アジアさらにはユーラシアというより広汎な地球規模の観点から、建築文化の伝播と発展をダイナミックに捉えなおすという意義を有する。

2. 研究の目的

ユーフラテス中流域を中心としつつ広くイラン西部から地中海東沿岸に至る西アジア一帯の空間を「横軸」に、歴史的には遠く先史の時代から古代の諸文明を経てイスラームの文化が浸透するまでの連続的な時間を「縦軸」に見立てながら、「組積造」と総称される建築構法をファクターとして織り込むことにより、古代西アジアの建築を技術の系譜として捉えなおすことを目的とする。

3. 研究の方法

- ・調査地域： 広くイラン西部から地中海東沿岸に至る西アジア一帯。シリアのほか、レバノン、ヨルダン、イランで調査を実施。
- ・対象年代： 新石器時代から古代の諸文明を経てイスラームの文化が浸透するまで。
- ・調査項目： 石造・煉瓦造という「組積造」に視点を絞り、とくに上部架構に着目し、略測と写真により組積の特徴を記録する。
- ・上記の枠組みで組積法の分類と編年を行い、各時代におけるセム系地域の建築技術を、その地域内のバリエーションの様相を明らかにするとともに、イラン系建築との比較を試みる。

4. 研究成果

1. シリア・パレスティナ地域の建築組積の特徴と類型化について。

- ・レバノンのビブロス、アシュムンの両遺跡のフェニキア時代以降、古代西アジアの支配民族変遷と建築組積技術との関連性を確認した。今日までの知見によると、青銅器時代以降、沿岸部では統的に石造を主体とし、前6世紀にペルシアが到来してその技法は一変する。バビロニア、ヘレニズムを経てローマの領域下で汎地中海的組積術が定着するという変遷を確認した。
- ・ヨルダンにおける調査から、新石器文化からローマ・ビザンツ時代に至るまでの当地の石造技術の先進性を認めた。なかでも青銅器時代に日本の築城術に類する組積法が見られるほか、ローマ盛期に他地域では煉瓦造やコンクリート構造が普及するにもかかわらず、当地では一貫して切り石組積による曲面架構が追及されたことを実証できた。
- ・シリア、ガーネム・アル・アリ遺跡に見る煉瓦・石材併用から近現代クッパ住居に移行する問題について、いまだ明瞭な実証研究が不足している事実を認識するとともに、その近傍においてヘレニズム以降、上記ヨルダン地方に準じた切石組積の伝統の消長を追うことができた。

2. イラン系建築組積の特徴とその広がりについて。

- ・レバノンのエシュムン遺跡やビブロス遺跡にみられるアケメネス朝期と伝える巨石組積と、イラン・ファールス地方のパサルガダエなど同時代組積との類似を確認した。
- ・シリア・ラッカ近郊のヘラクラ遺跡に見る巨大石造遺構に、イスラーム期におけるサーサーン朝的工法、すなわち不整形、あるいは粗い矩形の切り石を、多量のモルタルを用いて積む組積法の伝播を認めた。

3. 西アジアのドーム組積術の多様性とその分布について。

- ・ローマ時代以前、おそらくは北メソポタミアを中心とする西アジア各地の新石器文化のコンテクストの中で生まれた、練り土ないし日乾煉瓦による輪積みドームの系譜上に、今日シリア中部にのるクッパ住宅の工法があると推測されるものの、いまだ考古学的には実証されていないとの認識を得た。
- ・ヨルダンを中心に、ローマ系の切石造ペンデンティヴ型（あるいはセール型）ドームの事例が確実に遺存していることを確認し、ハギア・ソフィア型（ビザンチン型）ドームの成立過程の問題に重要な例証を得た。
- ・サーサーン朝に見る大型ドームとローマ系ドーム架構との影響関係について、かつてローマによるペルシア技術の模倣という仮説が提示されていたが、上記ペンデンティヴ技法が2世紀代には実現していたことが事実となり、過去の仮説に再検討を迫るという課題を生じた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 28 件)

深見奈緒子 2009 ペルシア湾岸調査から一建築文化におけるアラブ的、イラン的、インドの性質とは(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第 16、98-104.

吉武隆一ほか 4 名 2009 地中海古代都市の研究 (123) 古代都市メッセネにおける劇場調査報告 2008 (1) 概況 (2) 出土部材(査読無) 『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第 48、773-780.

吉武隆一 2009 古代都市フィガリアの研究小史(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第 16、90-97.

吉武隆一ほか 1 名 2009 地中海古代都市の研究 (127) フィガリアの城壁と建築遺構の一般調査 2009(査読無) 『日本建築学会研究報告九州支部』第 49、581-584.

吉武隆一ほか 4 名 2009 地中海古代都市

の研究(131) エウパリノスの水道トンネル(査読無) 『日本建築学会研究報告九州支部』第49、597-600.

岡田保良 2008 2008年度イランの調査から一ドーム遺構を中心に(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第15、72-77.

深見奈緒子 2008 ラールのミフラーブー海を渡る建築(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第15、64-71.

深見奈緒子 2008 グジャラート地方沿岸部にみるイスラーム教徒のモスクと墓建築(査読無) 『インド洋海域世界における港市の研究—インド・カッチ地方を中心として』シルクロード学研究、第30、27-61.

辻村純代 2008 シリア・アパメア遺跡の列柱道路—ローマ都市の街路事例研究—(査読無) 『Newsletter セム系部族社会の形成』No.11、24-30.

岡田保良 2007 続々・ガダラのドミカル・ヴォールト(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第14、98-102.

岡田保良 2007 西アジア古代後期の石造ヴォールトについて(査読無) 『ORIENTE 古代オリエン特博物館情報誌』No.35、11-15.

深見奈緒子 2007 ラッカージャズィーラ地方の拠点(査読無) 『Newsletter セム系部族社会の形成』No.8、5-12.

深見奈緒子 2007 イスラーム初期の都市と建築—西アジアにおける建築の伝統と技術の継承(査読無) 『ORIENTE 古代オリエン特博物館情報誌』No.35、16-20.

岡田保良 2006 続・ガダラのドミカル・ヴォールト(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第13、99-102.

岡田保良 2006 古代西アジアにおける最初期の建築とその建材に関する一考察(査読無) 『国土館考古』第2号、79-86.

岡田保良 2006 組積造の建築遺構を巡り歩く—レバノン篇(査読無) 『Newsletter セム系部族社会の形成』No.3、9-14.

深見奈緒子 2006 ウマイヤ朝期の建築文化(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第13、103-107.

深見奈緒子 2006 アンジャール—初期イスラーム時代の宮殿都市への考察(査読無) 『地中海学会月報』291号、8.

辻村純代 2006 ローマ都市の街路(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第13、8-10.

岡田保良 2005 ガダラのドミカル・ヴォールト(査読無) 『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第12、69-75.

21 深見奈緒子 2005 幻想的装飾美の世界—漆喰細工の鍾乳石飾り「ムカルナス」(査読無) 『季刊文化遺産』vol.19、38-42.

[図書](計 8 件)

大沼克彦、西秋良宏、岡田保良ほか 12 名 2010 『紀元前 3 千年紀の西アジア』(六一書房)、全 186 ページ中 67-73.

岡田保良、益田兼房、岡田健ほか 9 名 2010 『Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage)』、全 256 ページ中 105-116.

深見奈緒子、新井勇治ほか 3 名 2009 『イスラーム建築がおもしろい』(彰国社)、全 239 ページ。

深見奈緒子、田代亜紀子ほか 2009 『Flood Damage Assessment Report on the Cultural Heritage in Hadramawt, Yaman』(Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage)、全 111 ページ中 11-29.

深見奈緒子、関口欣也、佐藤正彦ほか 7 名 2005 『アジア建築の諸相』(相模書房)、全 394 ページ中 309-343.

[学会発表](計 10 件)

岡田保良 2010 古代西アジア建築における組積技術の形態と系譜に関する研究(特定領域研究「セム系部族社会の形成」第 6 回シンポジウム)

深見奈緒子 2010 歴史都市における中庭式住居—伝統と未来(早稲田大学イスラーム地域研究機構公開講演会)

岡田保良 2009 ユーフラテス河中流域の古代遺跡にみる建築組積(特定領域研究「セム系部族社会の形成」第 5 回公開シンポジウム)

吉武隆一 2009 Digital recording and reconstruction of neoclassical buildings in Kilkis and Thessaloniki (CIPA—文化遺産ドキュメンテーション国際委員会、京都)

岡田保良 2008 Some Conservation Practices of Earthen Remains from Archaeological Activities in Syria (10th International Conference on the Study and Conservation of Earthen Architectural Heritage, マリ共和国)

深見奈緒子 2008 ムカルナス(鍾乳石飾り)からみたイスラーム建築(東洋史学会)

岡田保良 2007 西アジア古代後期のヴォールト組積について・その 1 (日本建築学会 2007 年度大会)

岡田保良 2007 西アジア古代の建築組積法—とくにドームの系譜と地域性につ

いて（日本オリエント学会 2007 年度大会）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡田 保良 (OKADA YASUYOSHI)

国士舘大学・イラク古代文化研究所・教授
研究者番号：90115808

(2) 研究分担者

深見 奈緒子 (FUKAMI NAOKO)

国士舘大学・イラク古代文化研究所・共同研究員
研究者番号：70424223

新井 勇治 (ARAI YUZI)

愛知産業大学・造形学部・准教授

研究者番号：20410855

(H20 H21 連携研究者)

山内 和也 (YAMAUTHI KAZUYA)

独立行政法人東京文化財研究所・地域環境
研究室長

研究者番号：70370997

(H20 H21 連携研究者)

辻村 純代 (THUZIMURA SUMIYO)

国士舘大学・イラク古代文化研究所・共同研究員
研究者番号：60183480

(H20 H21 連携研究者)

吉武 隆一 (YOSHITAKE RYUICHI)

熊本大学・大学院先端機構・特任助教

研究者番号：70407203 (H21 連携研究者)

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

岩出まゆ (IWADE MAYU)

東京文化財研究所・特別研究員